

森を渡る風のささやき・溪流のせせらぎ・野鳥のさえずり・そして森に集う人々の声

● 森林ボランティア情報誌

# あきた 森のシンフォニー

Akita Forest Symphony

平成26年  
9月30日発行

vol.1



● 表紙について ●

7月12日、「2014.あきた水と緑の森林祭」が大仙市「八乙女公園」で開催された。「八乙女公園」は、仙北地域では角館と並ぶ桜の名勝地である。あいにくの曇り空であったものの、森づくり活動が始まる頃には夏の太陽が照りつけた。全県から約800名が参加し、下刈りや桜への施肥に汗を流した。

## CONTENTS

特集／森に集う仲間たちー2

鳥海山を再びブナの森へ

みんなで行動 森づくりー6  
森づくり税 2014活動報告

市町村等の森づくり活動支援事業ー10  
仙北市／美郷町

鳥海山にブナを植える会

緑とともに生きる《緑のムラ》ー12  
阿仁根子

インフォメーションー14  
頑張る森林ボランティアー16  
森人の会

あきた森のシンフォニー

vol.1

平成26年9月30日発行  
編集・発行／あきた森づくり活動サポートセンター／愛称:モリエールあきた

TEL 019-2611 秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4

TEL 018-882-5570 FAX 018-882-5571

〒990-0001 秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4

印刷／有限会社パルブ

## 頑張る森林ボランティア

### もりゆうど 森人の会

半田克二郎

湯沢市・雄勝郡を中心に森づくりなどの活動を行っている「森人の会」(もりゆうど)のかい(代表 片野恒夫)がある。この会は、荒廃した広葉樹の里山を再生させるために、地域の人たちと一緒に森づくりをしながら、人と森との関係を考えることを目的として、平成21年に設立された。

ただこのグループの活動は4人の森の案内人を中心として、平成13年ころから始まっており、当時は自然観察会を主体に活動していた。県南の小中学校をはじめ、一般のグループや教育関係の講師なども務め、やがてその評判は高まり、岩手県や宮城県にまで出張して観察会を行い、多いときはひと月で15回以上の依頼があった。そこで森の案内人だけでは負担が大きすぎることもあって、一緒に活動する仲間を集い、現在の形となった。会員数は21名。

FM放送で活動をPR

「森人の会」の主な活動は、里山の広葉樹の森づくりである。無償で貸し出された湯沢市内の県有林の手入れを、月に一度のペースで除伐・間伐、下草刈り、そしてキノコの植菌などを行っている。(現在は旧雄勝町の民有林に移動)

大人気の恒例行事

その他に毎年恒例行事として行われているのが、春の観察会と秋の芋の子汁だ。特に春の観察会は大人気で、毎年多くの人たちが参加しうれしい悲鳴を上げている。というのもこの観察会、ただの観察会ではない。春の山菜、野



キノコの植菌体験



採取した山菜、野草

この活動で重要なのは一般参加者への呼びかけであるが、湯沢市の「コミュニティFMゆくとびあ」の番組「森からの風便り」で行っている。(水曜日午前10時から11時)まで毎週会の中心メンバーが生出演して、自然に関する視聴者の質問や疑問に答えながらのトーク番組で、「FMゆくとびあ」の中でも長寿を誇る人気番組だそう。この番組を通して会の活動予定などが聞くことができる。

草を紹介しながら、利用できるものはその場で採取し、昼食時にそれを調理して食べる。その数10数種多いときには20種類を超える。てんぷら、おひたし、和え物と調理されたものを見て、山菜に詳しい年配の人さえ驚く、多くの子供たちも参加するのだが、家でも減多に口にしない山菜を、このときは、この観察会を楽しみに毎年欠かさず参加する家族もいる。



この観察会と連動して「森人の会」では、雄勝広域森林組合で行う「森の市」で山菜の試食会も行っている。市場には出回らない食べたことのない山菜や野草は、ここでも大人気で、あつという間になくなってしまう、このイベントの目玉となっている。



秋の芋の子汁も好評

## 山の幸に舌鼓



特集  
森に集う仲間たち

# 鳥海山を再び ブナの森へ

## 鳥海山にブナを植える会

1994年(平成6年)7月31日に発足した「鳥海山にブナを植える会」、今年で節目の二十周年を迎えた。

発足した前年、「白神山地」がユネスコの世界遺産(自然遺産)に登録され、「森林」や「ブナ」へ対する国民の関心がおおいに高まった。また、翌年の林業白書に「森林文化の新たな展開」が取り上げられた。森林浴や森林環境教育など今ではたくさん見られる活動が初めて白書に掲載されたことは、その後の経過を考えると転換点となる出来事だった。

こういった時代に発足した「鳥海山にブナを植える会」、キーワードの「鳥海山」、「ブナ」、「植樹」が人々の心を捉え、象潟町民に限らず県内、県外

からも多数の方々が会員として参加した。

今回は、設立時からの会長である須田和夫さんと副会長の佐藤文夫さんからお話を伺うとともに、その活動を紹介することとした。

### 鳥海山はブナの宝庫だった

「鳥海山にブナを植える会」が誕生するきっかけを振り返ると、少年時代まで鳥海町で過ごした佐藤文夫さんの実体験を語らずにはいられない。

佐藤さんは1929年生まれ、小学校の遠足で孫佛山の麓にあるベニヤ工場を見学に行ったとき、直径1mもあるブナの丸太がクルクル回り

ながらむかれていくのを見て驚いたこと。工場からブナ林まで森林軌道

が通っていたこと。ブナ林では、直径1m前後の切り株が数え切れなくあったこと。戦中・戦後は、軍需物資や復興資材としてブナ林が伐採されているのを見たこと等々。

その後東京で教職につき、帰省するたびに鳥海山麓のブナ林が消えていくのを見ると目を覆いたくなるほどだったという。こんな思い出があったから、ブナを植えることによつてブナの森の大切さをみんなに解ってもらいたいと考え、定年退職したら「鳥海山にブナを植えてブナの森を再生させよう。」と思に至る。その実現のため、1992年に象潟へ移り住む。しかし、なかなか実現する方法が見つからず、1年、2年と時は流れていく。

1994年正月に開催された「ある集い」に知人から誘われて参加、自己紹介で「鳥海山にブナを植えて、かつてのブナの森を取り戻そう」と話したものの、その場では反響がなかったと記憶している。

その翌日、家に訪問者があり、「私は、須田和夫といひます。ブナを植える話を聞いて心が躍りました。一緒にやりましょう」

### 鳥海山にはブナがよく似合う

須田さんは、1946年生まれ、象潟町関で農業を営む。「出羽富士」と呼ばれる美しい山、鳥海山を仰ぎ見ながら育ってきた。須田さんは自分の山林にスギを植栽してきたし、造林の作業現場でも働いた。作業に携わりながらその伐採風景を目の当たりにした須田さんは、手入れが行き届かない荒れ放題の針葉樹林を見るにつけ、ブナを主とする広葉樹の森の多面的な役割と重要性を知る。いまこそ「後世に残すべき財産としてブナの森の復元を」と、夢を描くに至ったのである。



須田さんと佐藤さん

この山の周りに住む人々は、遙か縄文の昔から鳥海山の恵みを受けて暮らしてきた。その恵みというのは、山を埋めつくしていたブナの原生林と山に積もった白い雪とによつてつくられたもの。人間だけではな

く、鳥海山のブナを頼りに生きてきた動植物にとっても、ブナの森はとうしても必要なものなのだ。  
豪雪に耐え、幾世代も天然更新を繰り返して森を造ってきたブナ、鳥海山にはブナがよく似合うのだ。

### 鳥海山にブナを植える会活動

友達が友達を呼び、10数名の発起人が集まった。代表を須田和夫さんとし、活動に向けて動き出した。『なぜ、いまブナなのか』という趣意書を作成し、地域の人々に参加を呼びかけた。

ブナの苗木は、当時の仁賀保森林組合が育てており、お願いをしてみると「提供しましょう。大事に鳥海山に植えて下さい。」と、快諾してくれた。種子から苗木を作る技術は、苗木を扱っている伊東農園に押しかけ、指導を受けた。指導してくれた伊東毅さんは、いまでも技術相談に応じてくれている。

植栽地については、当時の象潟町長の協力も有り、かつて「木立ヶ原」といわれ、広大なブナ自然林が存在していた霊峰付近の町有地の提供を約束してくれた。  
こうして準備が整い、会の名称も

「鳥海山にブナを植える会」に決定し、設立総会を中島台キャンプ場の大きなブナの木の下ので開催したのである。

### 初めての植樹を開催

翌年10月、澄み切った秋風のなか、総勢86人の参加を得て記念すべき植樹活動が始まった。植樹場所の準備やバスの運行など、スタッフや象潟町の協力で順調に行えたと思っっている。植栽場所は、3合目付近の鳥海ブルーライン沿い、火山礫が混じっていたり、ササや木の根がはびこり、植栽する穴を掘るのに苦労したことや昨日のように思い出される。



根付いたブナ

沿岸で漁業を営む会員は、大漁旗を掲げ、企業の若い方々が黙々と唐鍬を振るう。植えては記念写真に収まる人々、額の汗には泥が付いて。用意した苗木は1時間程で鳥海山に植えられた。厳しい条件に植栽したため、根付くのは半分くらいかなと危惧をしながら。

### 心に植えられたブナの苗

毎年10月第4土曜日は、会恒例の植樹会だ。

昨年は、遠く奈良県など県外からの参加者や県内各地から170名が鳥海山麓に集まった。育林部の会員は、安全な作業と植えられたブナがしっかりと根付くよう、植え方を丁寧に教える。

前もって割り振りされた区画で唐鍬を振るい、スコップで植え穴を掘る。堅い土と木の根っこが邪魔をし、作業は困難を極める。でも、参加者は協力し合いながら適度の大きさの植え穴を開け、ブナの苗木を丁寧に植えていく。そして、下刈作業時に誤って苗木を伐ってしまったような標識を立てる。参加者の中には、記念にとその標識に名前を記載したり植樹活動を楽しんでいる。



植栽作業▶



▲2012年・3万本達成の記念植樹・標柱

2012年には、3万本に達したことから記念植樹を行った。みんなこれまでの苦労を讃え合った。  
2000年、地元仁賀保高等学校では、自主企画事業で鳥海山にブナを植えることとし、5年ほど続いた。学校では、この活動が一区切りしたと判断し、活動を停止しようとしたところ、この企画を進めた当時の生徒会長が苗木代の寄付を申し出、こ

の活動の継続を強く学校へ働きかけた。この行為に学校側は方針を改め、県の森づくり税の支援を受け、活動を継続して今年で15回の植樹を迎える。

植樹活動は、森に木を植えるだけではなく、活動する人々の心にも森づくりの意義を植えつけたのでしよう。心に植えられたこの苗木が大きくなって、素敵な社会人になったことを大いに喜ぶたいものである。

作業終了後は、昼食と交流会。県南部漁業協同組合の女性部の方々の手作りの鍋つこが振る舞われる。参加者に喜んでもらおうと張り切った料理をしてくれる。植樹を終えた人々が列になって求める。労働のあとの疲労感が残る身体に、鳥海山の冷気が染み込んでくるけれど、この一杯で身体が温まる。



「手作りの鍋つこ」は、心も身体もあたたまる何よりのご馳走です。

### 自主的に活動する会員達

会の運営をスムーズに行うため、会長・副会長・事務局・会計のほか総務部・育林部・育苗部・広報部といった役割分担し、各部長が責任を持って作業に取り組む。

各会員は、それぞれ作業の役割を担い、植樹活動まで多くの日にちをかけて準備を進めていく。

通年、3月下旬には種子から芽が出た1年目の苗木を苗畑に移す作業から始まる。毎月の最終土曜日は、苗畑の草取り。鳥海山に根付くように立派な苗木にするため、丁寧に管理する。6月には、前の年植栽した苗木への追肥を行うとともに、雑草やツルに負けそうな植栽地の下刈り作業だ。植えっぱなしでは森にならない、植えたからには手を加えることが大事なのだから。



苗木に追肥を行います。



根気のいる下刈作業

### 次代に向けて

2013年秋、この年は久しぶりにブナが沢山実をつけた。この機会を逃してはならじと、奇形ブナで有名な中島台で種子を集める作業を行う。管理者である東北森林管理局も快く許可してくれる。集めた種子は、会員が家々で発芽させ、翌年の春には苗畑に移植されるのである。

この20年、林業技術も無く、森づくりのイロハも知らない素人集団が、試行錯誤しながら木を植えてきた。こんなに夢中になって来れたのは、会員一人一人が同じ夢に向かい、その実現のため、皆で知恵を出し合い、



中島台での種子採集作業

労力を惜しまず働いたからにはほかない。  
しかし最近、若い人々や、農業・漁業に携わる方の参加が少なくなっているのが寂しい。水を蓄える森、森を水源とする水は、川をつくり、田んぼを潤し、海を豊かにする。営々と繰り返されてきた自然の循環が、ここに暮らす人々の生活を豊かにしてきたのだ。  
だから、木を植える姿を見ていただき、みんなの参加を求め、一緒に次代へ引き継いで行きたいのです。  
鳥海山にだけでなく、人々の心にも豊かな森を創るために。

鹿角市

### 甘露の森里山保全チームが植樹活動 《6月8日》

場所 ● 鹿角市八幡平切留平地区  
実施主体 ● 甘露の森里山保全チーム

甘露の森里山保全チームが活動する甘露周辺は、クロスカントリーやウォーキングのコースとして利用され、多くの人々が訪れるところです。平成19年から未立木地を森林にしようと木を植え、これまでに約1,550本を植栽し、保育活動を通じて木の生長を観察したりしながら森とのふれあいを行ってきました。

今年も森林ボランティア支援事業を活用して、八幡平切留平の森林で八幡平中学校女子バスケットボール部員やその保護者とともに

に、ヤチダモやミズナラを植栽しました。また、これまで植栽した木の観察や下刈作業に汗を流しました。

今回の参加者は、会員も含め約50人とこれまで最も多い参加者となり、活気ある楽しい活動になりました。

甘露の森里山保全チームのみなさんは、森林施業にとっても意欲的で、楽しんで活動しているのが印象的でした。



ミズナラの苗木、森へ植えられたのを待っているようです



みんなで植樹です



ご苦労様、記念撮影です

大仙市

### 森に遊び 木に触れて森の応援団になろう 《6月21日・22日》

場所 ● 大仙市太田「大台スキー場」及び「真昼岳」  
実施主体 ● ちっちゃいもの倶楽部

県民提案事業を活用し、森の散策・植樹・森の仕事や森の遊び・生き物と自然との関係・木を使い森を育てるなどをテーマにした体験学習が開催されました。

初日は真昼岳登山をしながら、山のマナー、そして植物や動物のなどを教わりました。翌日には、ドングリの苗木を植えたり木の枝を利用してスプーンを作ったりと盛りだくさん。ツリークライミングや丸太伐りの体験もしました。

参加した子どもたちにとって、今回の体験は貴重な思い出になる

ことでしょ。そして、森の仲間になってくれたものと思っています。大きくなって「あのときこんな遊びや体験をしたんだな」ということを時々思い出して、森を見つめて下さい。



真昼岳登山 元気に登りました



スプーンに自分たちで作った木の屑をつけました。お昼はこのスプーンを使って食事です



緊張して登りました 木の上からの景色はどうだったかな？

湯沢市

### 学校林で森林の環境学習 《6月26日》

場所 ● 湯沢市山田「山田小中学校学校林」  
実施主体 ● 湯沢市立山田小学校

湯沢市立山田小学校では、森林環境学習活動支援事業を活用して小学5年生を対象に、「学校林」での森林環境学習会を開催しました。

ノコを使っての枝切りや育ち遅れたスギの伐採、こういった作業をすることで、学校林が立派な森林になっていくことを学びました。初めて挑戦したスギの皮むきでは、コツを覚えると簡単にむくことができました。姿を現したツルツルの木の肌に歓声をあげながら。

森林作業体験のあとは、自然観察会。森人の会の先生が、森林の

働きや草花のことなど面白いお話を交えながら教えてくださいました。みんな、熱心に聞き入っていました。

この1日をとおして、貴重な体験を積んだし、いろんなことを学びました。身近な自然に関心を持つ良い機会になったことでしょう。



手伝ってもらいながら、チェーンソーで木を切ってみました



皮を剥いた後の木の肌に感激。「欲しい！もらってもいい？」「いいよ」



森人の会の皆さんが自然の不思議を教えてくださいました



# 秋田県水と緑の森づくり税事業

## みんなで行動 森づくり 2014 活動報告

地球温暖化をはじめとする環境問題への関心が高まるなか、様々な森林ボランティア活動が年々活発に行われています。「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用した活動事例の一部をご紹介します。

由利本荘市

### 「山遊庭の森」で森林に親しむふれあい交流会 《5月9日》

場所 ● 由利本荘市東由利法内「山遊庭の森」  
実施主体 ● 東由利林業懇話会

枝垂れ桃が咲き誇る「山遊庭の森」に、子供たちの歓声が響き渡ります。森林環境学習活動支援事業を利用した交流会です。本日は、永慶保育園・みどり保育園の年長組24名、東由利小学校3・4年生39名やグループホーム・地域の人たち・婦人会など総勢100人の方が森に集まりました。たくさんの方の訪問者、森の当主である阿部重助さんや、お迎えをした秋田県のマスコットキャラクター「スギッチ」も大喜びです。

シイタケ・ナメコの駒打ち、シイタケの収穫体験、アケビの受粉作業、森に関する〇×ゲーム、積木体験など盛りだくさん。みんなで一所懸命お仕事をされる真剣な可愛らしい顔・しぐさに大人たちは目を細めて見つめていました。特にシ

イタケを収穫するのが一番楽しかったと口々に答えます。でも、お母さんたちは、ビニール袋にシイタケを一杯入れ、子どもたちより嬉しそうでした。



シイタケとナメコを植え付けました。種駒をトントン叩きながら



スギッチがお出迎え 元気に「こんにちは！」とご挨拶



「お母さんこのシイタケ採っていい？」一杯採ってね



アケビの受粉体験。たくさん実がつくように

由利本荘市

### クロマツの美林を取り戻す活動 《7月13日》

場所 ● 由利本荘市石脇「新山野墓園周辺」  
実施主体 ● 新山松原再生プロジェクト

昨年発足した新山松原再生プロジェクトは、30名の会員が毎週水曜日の午前6時から1時間かけてクロマツ林に生い茂った雑草や、侵入したコナラやニセアカシアを取り除く作業を行っています。

今年度から県民提案事業を活用し、定期的な活動のほかに広く作業ボランティアを募集して仲間の輪を拡げることとし、ボランティアを募ったところ、新たに8名の方が参加してくれました。本日は、これまで刈り払った雑草や

雑木を集める軽作業です。1時間程の作業で、すっきりしたクロマツ林になりました。

「我々のできる範囲のことをしていきたい。この活動で、クロマツを元気にすることで、野墓園から望めるところなので、墓参する人々がこの林をみて癒やされたら良いなと思っている。」(後藤至会長談)

刈り払った草や投げ捨てられたゴミを集めていきます。みるみるうちにきれいになりました



クロマツに侵入していた広葉樹も刈り払っていきます



作業をすればするほどきれいになる。流れる汗は気持ちが良い

能代市

### 小学生の森林作業体験を実施 《7月3日》

場所 ● 能代市二ツ井梅内「旧梅内小学校学校林」  
実施主体 ● ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト

ニツ井宝の森林(やま)プロジェクトでは、森林ボランティア活動支援事業を活用するなどして5つの活動を計画しています。これまで、4月下旬の「ナメコ・シイタケの植菌活動」から始まり、6月の「森の健康診断リーダー養成研修会」、7月の「ニツ井小学校3年生の森林作業体験」が終了しました。

今回は、ニツ井小学校3年生49名が参加した森林作業体験の様子をお知らせします。

ニツ井町は、かつて天然秋田杉の産地で、地域に住む人々は、山から恩恵を受けてきました。でも今は、枝打ちや間伐が必要な人工林がたくさんあります。立派な森林に導くためには、手入れをすることが大切であることを伝えよう

と、例年小学3年生を対象に森林学習を行っているのです。

会員が先生役となり大張り切り、植物の名前、木の高さや直径の測り方を教えたり。実際測ってみるのは初めての体験でした。最後に、木の伐採作業を見学、大きな木がバリバリと倒れる様子が歓声が上がりました。難しくなかったけれど、楽しく学ぶことができた森林学習会でした。



ノコを使って枯れ枝を落とすよ



ヘルメットを被り、いざ森へ「どんなことをするのか?」ちょっと不安そう



「この木、高いなあ!何メートルあるの?」「測ってみよう」

秋田市

### プラザクリプトンの森を遊ぼう 《7月3日》

場所 ● 秋田市河辺戸島「プラザクリプトン学習交流の森」  
実施主体 ● 自然あそび親子サークル『Akita コドモの森』

“子育て世代に、秋田の森に親しんでもらったり木製品ふれてもらったりして、子どもたちが森や木を五感で感じてもらいたい。親には、秋田の自然の美しさや恵み、森林の大切さを知ってもらいたい”との思いから、県民提案事業を活用して子育て世代が森を理解するきっかけづくりの活動を行っています。このサークルには、『大人たちが温かく見守る中、空・太陽・水・大地・緑の自然に囲まれ、子どもたちが安心して日々を過ごし、成長していく』という、とても大切にしている言葉があります。

この日は、遊び慣れたプラザクリプトンの森を訪問。森の広場では、お母さんたちが「いいいの場づくり」に精を出しています。待ちき

れない子どもたちは早速行動開始。夏の森は、虫網を持った子どもの姿がよく似合います。そして、ゆっくりを森を歩きながら、たくさんの森の不思議を見つけました。

このあと、白神山や乳頭高原の散策、秋田スギの間伐材を活用した子供用木製玩具づくりなども行うこととしています。



夏の森には虫網を持った子どもの姿がよく似合う



色とりどりの服装は、一気に森を賑やかにしてくれます



「大きなスギの木、ベトベトするのが出ているよ!」「木の汗かな?」

美郷町

### 薬樹の森づくり活動植樹会 《7月19日》

場所 ● 美郷町千屋「旧花岡スキー場」  
実施主体 ● 特定非営利活動法人みさぼ一と

美郷町では、薬用植物を栽培し、生薬メーカーへ供給する「生薬の里」構想実現に取り組んでいます。

特定非営利活動法人みさぼ一とでは、県民提案事業を活用してホオノキを植栽し、「薬樹の森づくり」を行いました。大きな葉っぱで知られるホオノキは、薬樹として古くから知られてきました。

植樹会には、松田美郷町長・公益社団法人東京生薬協会会長・製薬会社の社長など多くの方が駆け付けてくれました。

美郷町住民活動センターで開か

れた学習会では、東京理科大学の和田浩志先生から「ホオノキ」について講演をいただき、ホオノキの効用を再認識し、今まで以上にホオノキに親しみを持つことができました。

植樹会場に移動した参加者は、5アールの面積に1mほどに生長したホオノキの苗木100本を丁寧に植えました



斜面に散らばって植栽です



植樹の前にホオノキについて学びました



丁寧に植えました。大きくなることを祈って

秋田市

### 森の案内人がスキルアップ研修会を開催 《8月30日・31日》

場所 ● 秋田市河辺「プラザクリプトン」及び雄和繁「森の案内人の山」  
実施主体 ● 秋田県森の案内人協議会

県民の方々が森林を学ぼうとするとき、その活動を手助けしてくれる森の案内人、県内各地で59名の方が、これまで磨いてきた得意技を駆使して森林・林業の働きや役割を伝えております。昨年度から森林ボランティア活動支援事業を活用して研修会を開催し、会員のスキルアップを図っております。

今年は、国際教養大学の熊谷嘉隆教授をお招きし、「日本の国立公園制度」と題しての講話を伺ったほか、小学低学年の親子が20名

が参加すると仮定した「森の見方に関心を持たせる」活動企画書を作成するためのポイントを学びその実践を行いました。翌日は、「森の案内人の森」へ移動し、下刈りや除伐など森林作業を実践しました。この日は、森の案内人の活動を県民の方々に見てもらうこととし、参加した5名の方々に森林を健全にする作業の必要性などを伝えました。



森林作業を行う準備、森林作業のベテラン会員から講義を受けました



活動企画書を各グループ毎に発表しました



ベテランの案内人がチェーンソーを使い、伐採の仕方を実践しました

# みんなで行動 森づくり



森林を育み、水環境への関心を育む

## 2014七滝山「水と森」植樹事業を開催

**学習会で森の働きを学ぶ**  
 6月30日、美郷町六郷東根にある七滝山で町内小学校の4年生をはじめ、JAL、町議会、土地改良区など関係者約400名が参加し、ブナの苗200本を植樹しました。

開会式及び学習会の会場となった「美郷町住民活動センター」では、秋田県水と緑のマスケットの「森っち」と町のイメージキャラクター「ミズモ」が仲良くお出迎えです。

開会で松田知己町長が、「皆さんが当たり前にいると思っている酸素をつくったり、水を蓄えてくれるのは森林の役割です。今日、みんなが植えた木が森をつくり、長い年月を経てみんなの役に立つようになるのです。」とメッセージを伝えました。

学習会では、秋田県七滝土地改良区の藤岡義博事務長が、「森林のはたらき」と題して講演。土砂の流出を防いだり、水を蓄えたり、二酸化炭素を吸収する森林の役割を説明し、生徒たちに森林の大切さを伝えました。

植樹会場に移ると、生徒たちは昨年度に植栽した苗木に肥料を与える「育樹作業」を実施。その後は、参加者全員でブナの苗木を丁寧に植樹しました。



森に根付くよう丁寧に植えました



学習会での「森林のはたらき」の講演



森っち、ミズモがお出迎え



仙北東森林組合の職員が植樹指導します



名水を利用して、清涼飲料水が製造されています



湧水群の一つ、御台所清水

**森からの恵み〜六郷湧水群〜**  
 コンコンとわき出す清水に木漏れ日がかすかに波立つ、それが六郷湧水です。水源の森百選に指定されている「七滝水源かん養保安林」からの贈り物です。

六郷湧水群は、昭和60年に環境庁から「全国名水百選」に選定され、平成7年には国土庁の「水の郷」にも認定されました。町の中心部に60カ所以上ある清水は、大切に保全され、今でも生活用水の一部として使用されています。

## 首都圏市民と仙北市民と一緒に森づくり 森林作業体験交流会in中泊

**15年間続いた交流会**  
 6月26日、秋田内陸線上松木内駅近くにある紙風船館「森林作業体験交流会」に参加する多くの人たちが、朝早くから集まっています。

この交流会は、首都圏と地域住民の交流を図ることを目的に、平成10年度から始まったもので、今年で15回を重ねるとのことです。市町村合併前の西木村が、平成9年度から取り組んだ事業メニューの一つで、その実現に向けて、担当した職員が、「にしきふるさと会」へ協力を要請し、参加を快諾していただきました。

さらに、村のホームページで呼びかけを行った結果、首都圏で活動している幾つかの森林ボランティア団体も参加してくれました。市町村合併後は、旧町毎のふるさと会に呼びかけをし、各々の会もこの交流会に参加することとなりました。

さて開会式、首都圏や県内からの参加者は約60名、地元からは約60名の人数です。主催者である「仙北市ふれあいの森推進協議会」の伊藤和彦会長や、門脇光浩仙北市長があいさつに立ち、「森林作業は危険が伴う。検討の結果、森林作業は今回で終了、メモリアルの作業としたい。交流を図る新しいスタイルを模索する」との報告がありました。



地元の人の指導を受けての伐採作業



開会式で参加のお礼を述べる伊藤会長



下刈作業に汗を流す。地元の人と一緒に作業です



瀬音の会の黒沢和義さん、創設時からこの活動を指導してきました

この報告がありました。

**メモリアルになる森林作業**  
 開会式後、早速森林作業体験会場へ移動。首都圏の参加者はリポーターが多く、慣れた手つきでチェーンソーや鎌を扱っています。午前からは午後にかけての作業で、雪の被害を受けたスギが除去されたり、下草が刈り払われてきれいな森に変貌し、みんな満足感一杯でした。

「瀬音の森」の黒沢和義さん、この会が始まったときからの参加者で、協議会のメンバーとしても貴重な助言を与えてきました。一過性のイベントにしないで、継続して交流を深めていくことが大事と。協議会のメンバーとして裏方の仕事にも携わっています。作業では、扱い慣れた手つきでチェーンソーを操り、玉伐りや伐採を行っています。

行事の企画・運営に、森林ボランティアの方の意見を取り入れていくことによって、参加者の興味を引きつけ楽しむことができる。これが長く続くコツでしょう。



根子番楽◆勇壮活発で荒っぽい武士舞が多いのが特徴で、国重要無形民俗文化財に指定されている。根子トンネル◆昭和50年に開通。車が1台しか通れないほど狭いわりには延長が576mと長い。根子山神社◆森の学校で根子集落を散策し、マタギの歴史と文化、山菜料理を堪能した参加者。案内標識◆集落内の道は迷路のようになっているが、案内標識が充実している。



今年、国民文化祭は、10月4日から1ヶ月間秋田で開催される。その際、根子番楽は、秋田を代表する伝統文化の一つとして国民文化祭のオー

2013年3月12日、阿仁マタギの狩猟用具293点が、国の重要有形文化財に指定された。これは阿仁マタギが日本を代表する狩猟民として評価された結果である。

旅マタギは、1800年代前半以降に始まったが、旅先で婿養子になったり、地元でマタギがいない所に移住したりして、中部東北の村々に分家のような形で狩猟組が形成されていった。だから、阿仁のマタギは、今でも全国のマタギ仲間から「本家」と敬われている。その中でも、根子は、旅マタギが最も多かったことから、「マタギ発祥の地」と呼ばれているのである。

周辺で行う「里マタギ」と、中部東北を中心に遠方まで出かける「旅マタギ」があった。阿仁マタギの最大の特徴は、旅マタギであるが、根子は、その旅マタギの数が最も多かった。彼らは、先々で熊の胆などの薬の行商も行った。

### トンネルを抜けるとマタギの隠れ里



阿仁マタギの狩猟用具◆打当温泉マタギの湯に併設されている「マタギ資料館」に展示されている。熊の胆◆万病に効く薬で、漢方薬の中では最高級品である。

プニングとフィナーレの両方で演じられるという。また、誰もが気軽に集落内を散策できるよう案内標識も充実しているので、今が旬の根子集落探訪をオススメしたい。

緑とともに生きる

## 阿仁根子

あにねっこ

北秋田市・阿仁根子集落



車1台しか通れないトンネルを抜けると、隠れ里のような村・北秋田市阿仁根子集落が姿を現す。四囲を高い山々に囲まれた小盆地に立地し、かつては、険しい峠を越えて入らなければならぬ隔絶された山村であった。そんなマタギ集落特有の景観と源平落人伝説を持つ根子(ねっこ)は、「にほんの里100選(主催・朝日新聞社/森林文化協会)にも選ばれている。

根子の語源は、開発を意味すると言われ、源氏の末裔が開いたものと、平家の落人が開いたものとの2つの伝説が残されている。「武士舞い」とも呼ばれる勇壮な根子番楽のお囃子は、遠い昔の歴史を語っているようでもある。

漂泊の旅人・菅江真澄は、1805年8月15日、笑内から山越えして根子の佐藤利右衛門の家に宿をとり、阿仁にアイヌ語地名が多いこと、マタギの山言葉にアイヌ語が多く含まれていることを指摘している。江戸時代から狩猟を生業とする者を「マタギ」と称したのは、青森、秋田、岩手の3県のみである。これは、アイヌ語地名の南限「北緯39度ライン」と一致している。

マタギの狩猟活動には、居住地区

## 秋田県からのお知らせ

県では平成20年度に秋田県水と緑の森づくり税を創設し、県民の皆様から納めていただいた税金を基金として積み立て、森林環境や公益性を重視した森づくりや県民参加の森づくりを実施してきています。

森づくり活動を行っている森林ボランティア団体の活動についての支援も行っており、昨年度は17件、総額約700万円の補助金を交付しています。これにより延べ約3,000人による県民参加の森づくり活動が実施されました。今年度は22件、総額約1,100万円の補助金の

交付により森づくり活動が展開されています。

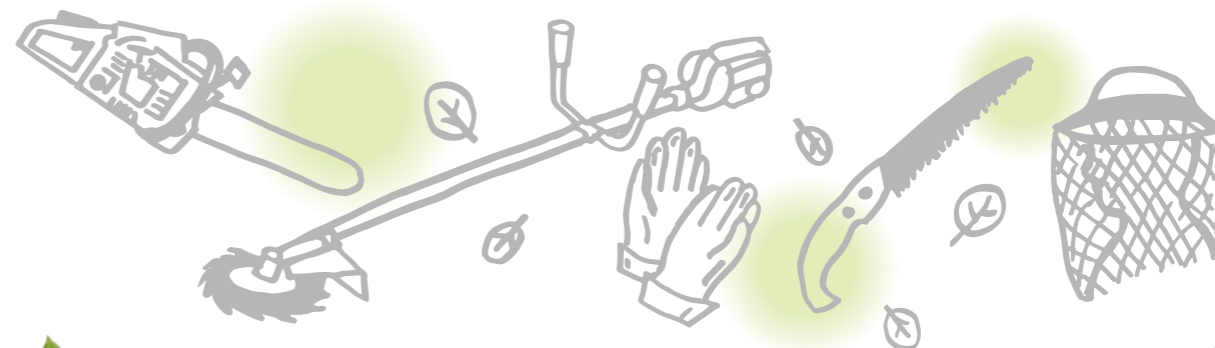
また、ボランティア団体以外の自治会等地域住民団体の自由な発想による森づくり活動、さらには小中学校、幼稚園、保育所の児童生徒を対象とした森林環境教育活動についての支援も幅広く行っています。

詳しい事業の内容や申請の方法等、まずはあきた森づくり活動サポートセンターにお問い合わせみてはいかがでしょうか。



## 機材を貸出しております。

樹高を測る、駒打ち体験をする、枝払いに挑戦……etc  
森づくり活動、森林ボランティア活動、林業作業体験などにご活用ください。



## 東北森林管理局森林からのお知らせ

### 森林ふれあい推進事業

#### 国有林でイベントを開催してみませんか？

東北森林管理局では、国民の皆様へ森林・林業に接する機会を提供するため、国有林を活用し、参加者を募集するイベント（森林ふれあい推進事業）を実施しております。

平成25年度からは新たに、イベントの実施主体として森林ボランティア団体等を公募し、森林管理局・署等との協定締結によりイベントを共催する制度が始まりました。

団体の創意工夫によるイベントを企画・実行し、活動を広げる場として、ぜひご活用ください。

#### ● イベントの内容

林業体験、森林保護活動、森林教室等の学習活動など。  
場所は国有林を主とし、民有林を含めることができます。

#### ● 応募資格（次の全てを満たす必要があります）

- 従来から森林を利用した活動等を実施している、営利を目的としない団体である。
- 森林・林業等について説明できる森林インストラクター等の資格者（資格の種類は限らない）を有している。
- 国有林野事業を熟知し、国と連絡・調整できる

#### ● こちらから提供するもの

- 国有林のフィールド
- 貸切バス
- 資料・機材
- 人員（職員）



#### ● 参加費の設定

保険料等を含めた実費とし、実施団体が設定・徴収します。

### 協定締結による国民参加の森林づくり

#### 国有林で森林づくり活動を行ってみませんか？

東北森林管理局では、国民の皆様へ「森林づくりをやりたい」というニーズに応えるため、地方公共団体、学校、民間団体等に対し、森林管理署等との協定にもとづき、国有林のフィールドを提供しています。

#### ● 森林づくり活動の内容（目的によって6タイプあります）

##### ■ ふれあいの森

自主的な植栽、下刈り、除伐などの森林整備を行いながら、森林・林業を学ぶ

##### ■ 社会貢献の森

企業等が、CSR活動として、地球温暖化等へ貢献する森林整備を行う

##### ■ 木の文化を支える森

歴史的建造物や伝統工芸など「木の文化」継承のための森林づくりを行う

##### ■ 遊々の森

学校や民間団体が、子どもたちへの森林環境教育として体験活動を行う

##### ■ 多様な活動の森

森林保全のための美化活動、歩道整備、自然観察、森林パトロール等を行う

##### ■ モデルプロジェクトの森

地域住民や関係団体と合意形成を図りながら、協働による国有林の管理を行う

国有林での森林ボランティア活動に関する問合せ  
東北森林管理局 技術普及課  
TEL: 018-836-2218 FAX: 018-836-2012  
Email: t\_shidou@rinya.maff.go.jp

### あきた森づくり活動サポートセンターで貸し出ししている機材一覧表

資機材名	規格等	保管数量	摘要
チェーンソー		3	油脂類使用者負担
刈払機		3	油脂類使用者負担
防塵ゴーグル		12	刈払機、チェーンソー
防振手袋	Lサイズ	6	チェーンソー用
防振手袋	Lサイズ	6	刈払機用
防蜂網	N型	6	
しいたけドリル	1万回転	8	下記錐とセット
きのこ錐	9.4mm	8	上記ドリルとセット
駒打用ゴムハンマー		8	
ハンズフリー拡声器	通達距離約45m	2	
剪定ノコ	27cm	30	
高枝伐り	2段、3.7m	5	はやうち
高枝伐り	3段、4.9m	2	はやうち
唐鋏		30	
スコップ		10	
子供用ヘルメット		70	
大人用ヘルメット		10	
熊よけベル	カラピナ付き	5	
輪尺	牛方式ワイド	6	森林調査用
巻き尺	スチール30m	2	森林調査用
巻き尺	スチール50m	2	森林調査用
林木メジャー	2m	2	森林調査用
樹高測定用測桿	8m	2	森林調査用
ポール	アルミ製2m	8	森林調査用

● 保管場所は「あきた森づくり活動サポートセンター」です。

● お気軽にご利用ください。

### モリエールあきたの今後の行事

11月15日(土)第2回森林ボランティア育成研修会を開催します。今回は、由利本荘市の「ロッカ森保全ボランティア」へ訪れ、活動内容や炭焼きなどを研修視察します。10月中旬お知らせをする予定です。

### 情報誌の発送について

今回は、50名以上の会員のいる団体には、50部を送らせていただきました。さらに部数が必要な場合はご連絡下さい。別便でお送りします。

### あきた森づくり活動サポートセンター (愛称：モリエールあきた)

〒019-2611 秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4  
ブラザクリプトン内  
TEL 018-882-5570 FAX 018-882-5571  
E-mail: akt-forest@triton.ocn.ne.jp  
HP: www.forest-akita.jp/